

事務事業名	資源回収ステーション施設管理事業			担当部	市民生活部	担当課	ごみ政策課							
実施計画	2	年目												
新基本計画	市政戦略編	分野別計画編	1	安全・環境	5	ごみ対策	1	市民・事業者・行政の協働による3Rを推進します						
予算区分	一般会計	款	4	衛生費	項	2	清掃費	目	2	ごみ処理費	大	4	中	6
根拠法令・個別計画	①	②			③									
目的	何(誰)を対象に	資源回収ステーション												
	どのような状態にするか	資源回収ステーションを適切に管理することで、市民が資源回収ステーションに資源ごみを持ち込みやすい状態に保ち、ごみの減量と再資源化を図ることで、ごみ処理経費の削減と資源売却による歳入の増加を図る。												
手段	どのような事業を実施するか	<p>生活様式の多様化により、ごみ集積場へ決められた日時に排出することが困難な市民が増加していることから、開設時間内であれば、資源ごみを排出することができる資源回収ステーションを開設し、良好に運営する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第1資源回収ステーション、第2資源回収ステーションで必要な消耗品や電気料金等の経費を支出する。 ○施設の維持管理に必要な修繕や、備品の購入。 ○シルバー人材センターに維持管理を委託する。 ○第3資源回収ステーションの整備後、第1・第2と同様に管理する。 												
		事業内容												
事業の概要	年度別事業内容	28年度	<p>第1資源回収ステーションは毎日、第2資源回収ステーション(H26.7~)は土日のみ開設する。市民対応や現地の管理をシルバー人材センターに委託する等、必要な経費を支出するほか、施設の維持のための修繕や備品購入も行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○光熱水費、電気料金 ○修繕料 <ul style="list-style-type: none"> ・ビット穴埋め修繕 ○通信運搬費 ○手数料 <ul style="list-style-type: none"> ・旧詰め所のエアコン撤去 ○管理委託料 <ul style="list-style-type: none"> ・シルバー人材センター ○備品購入費 <ul style="list-style-type: none"> ・詰め所移設に伴うエアコン、電話機 											
		29年度	<p>平成28年度に追加して、第3資源回収ステーション開設に伴い、旧浄化槽汚泥処理施設を解体等の経費も見込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○修繕料 ○通信運搬費 ○手数料 <ul style="list-style-type: none"> ・旧浄化槽汚泥処理施設のし尿汲み取り手数料等 ○管理委託料 <ul style="list-style-type: none"> ・シルバー人材センター ○備品購入費 <ul style="list-style-type: none"> ・第3資源回収ステーション開設に伴う備品等 											

事業費	財源内訳 (千円)	H28		H29	
		当初予算額	決算額	当初予算額	
	合計	7,859	7,102	10,426	
	国支出金	0	0	0	
	県支出金	0	0	0	
	地方債	0	0	0	
	その他	0	0	0	
	一般財源	7,859	7,102	10,426	
	特定財源の説明				
事業費	事業費内訳 (千円)	H28		H29	
		当初予算額	決算額	当初予算額	
		電気料金等	50	28	454
		修繕料	200	200	900
		通信運搬費	84	84	106
		手数料	11	4	102
		委託料	7,364	6,697	7,564
		※実施計画は、管理事業・整備事業の合算 備品購入費	150	89	1,300
従事者数	正職員(人数)	1.0		1.0	
	その他職員(人数)	1.0		1.0	

ステップ I	影響を与える展開方向の指標		単位	目指す方向性	基準値	H26	H27	H28	H29
	①	再資源化率	%	→	26.2%	30.7%	35.3%	36.7%	
②									
基本施策の展開方向の指標に対する影響(貢献等)									
H28 実施結果	資源回収ステーションを良好に管理運営することで、市民が利用しやすい状況が維持でき、市民のごみ減量の意識が高まる。								
ステップ II	事業の成果指標		単位		H26	H27	H28	H29	
	①	資源回収ステーション利用者数	人	目標	—	—	—	—	
				実績	60,154	65,713	75,784		
	②	資源回収量(剪定枝含む)	トン	目標	—	—	—	—	
				実績	9,968	9,943	9,327		
	事業の活動指標		単位		H26	H27	H28	H29	
	①	資源回収ステーション開設日数(第1第2合計)	延べ日数	目標	439	465	454	476	
				実績	439	465	464		
	②			目標					
				実績					
事業の目標達成状況とその要因、実績増減の要因、今後の見通し									
H28 実施結果	第1資源回収ステーションの委託先職員(シルバー人材センター)の詰め所は、旧清掃事務所の建物を利用していましたが、資源回収場所から遠く、来場した市民の利便性を損ねていたため、老朽化に伴い、回収場所近くに移設を行った。委託先職員が常駐することで、資源を排出してきた市民が分別を問い合わせる等に対応でき、また、回収ステーション内の環境を適正に維持している。資源にはペットボトルやプラスチック製容器包装等、それほど重さがない物もあり、実績のトン数は減っているが、利用者数は増えており、ごみの総量の減少もあると思われる。								
ステップ III	要因を踏まえた事業の見直し								
H28 実施結果	職員詰め所を回収場所付近に移設したことで、市民の利便性が高まった。資源回収も経費はかかるが、ごみの最終処分は非常に経費がかかり、ごみとして排出されるものから資源として分別できるものを分別することは、環境面だけでなく経費面からも効果がある。一部、マナーを守らない利用者もいるが、資源として排出できる利便性を高めることで、ごみ全体の処分量を減らすことが目的であるので、ある程度の臨機応変な対応をしようとしている。								

一次評価	判定		判定理由
	事業の方向性	拡大	実施計画は資源回収ステーション施設管理事業、施設管理ステーション施設整備事業とあわせた査定となっている。ごみの減量化のためには、さらなる資源の分別が必要であり、資源回収ステーションについては、利便性や安全性の確保・拡大のため、整備や管理をしていく必要がある。
	対象の拡大や手段の充実等により、事業のボリュームを拡大するもの。		

二次評価	判定		判定理由
	事業の方向性	拡大	一次評価のとおり。
	実計ヒアリング実施要否	不要	
事業の位置づけ	実施計画事業として継続		